

## カキ ‘富有’ の果実肥大と 9 月の気温との関係

温暖化の進行に伴って、カキの栽培環境は大きく変化しつつあります。特に 9 月の高温は、果実生長に影響を与え、後期肥大期間が減少し果実肥大が劣るといったことが起こりつつあります。そこで ‘富有’ 果実の発育と気温との関係について、9 月の平均気温が、果実サイズに影響を与えていることを明らかにしました。

### ☆ 技術の概要

1. 1998～2012 年の 15 年を対象として、月別平均気温と収穫時の果実重との相関を求めたところ、9 月の平均気温との間に相関が認められました (図 1)。また 8 月中旬以降の平均気温と果実重との間には、23℃以下初遭遇日との間に負の相関が認められました。
2. 選果場における階級比率と平均気温との関係を調べたところ、9 月の平均気温と岐阜県系統共販の階級比率との間には高い相関関係が認められ、9 月の平均気温が低いほど大玉比率が高くなる傾向が認められました (図 2)。

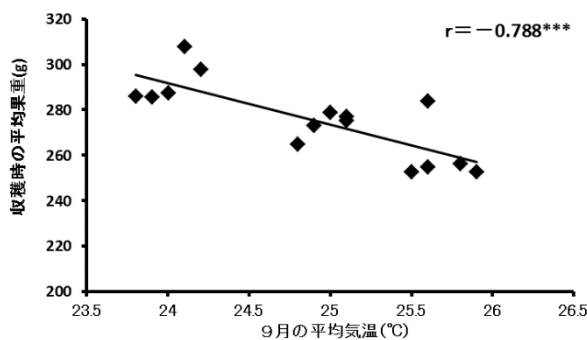
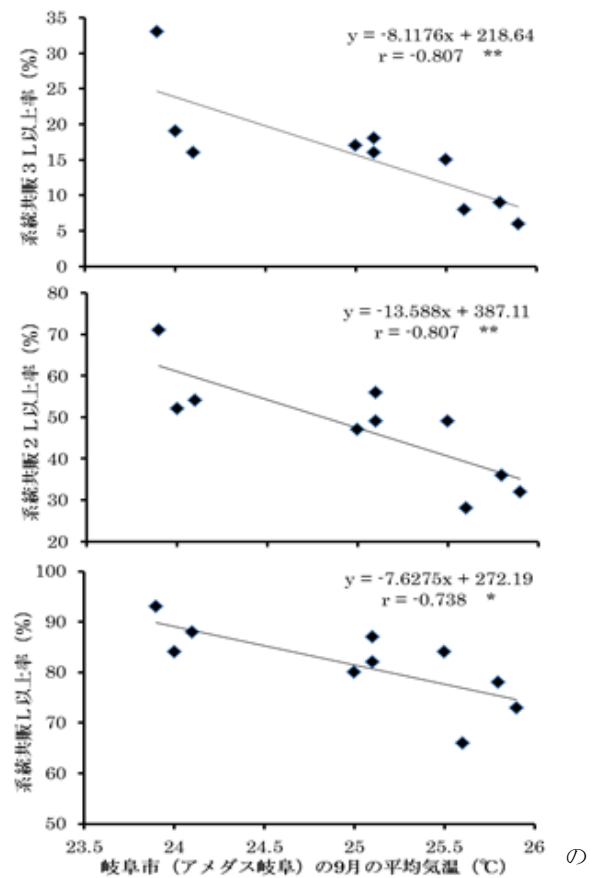


図 1 収穫時の平均果重と 9 月の平均気温との関係。  
r は相関係数, \*\*\*は 0.1%水準で有意であることを示す



岐阜市 (アメダス岐阜) の 9 月の平均気温 (°C) の L, 2L, 3L 以上率との関係。  
r は相関係数, \*, \*\*は、それぞれ 5%水準または 1%水準で有意であることを示す

### ☆ 活用面での留意点

1. 果実肥大との間に相関が認められた、日平均気温 23℃以下の初遭遇日に相当する温度は、カキの着色とも関連が強く、果実成熟全般を進めるスイッチとして機能していると考えられます。
2. 夏から秋に変わる気象要因を説明変数に用いた重回帰分析により、収穫時の果実重を高い精度で予測することも可能です。
3. 詳細については、岐阜県農業技術センター (電話: 058-239-3131、電子メール: c24401@pref.gifu.lg.jp) にお問い合わせください。

(果樹研究所 企画管理部 研究調整役 井原史雄)